

校訓	真善美	令和7年度 学校だより	発行日	令和8年3月17日
教育目標	自ら考え、協働し、共に未来を 創造する生徒の育成 認め合う心、確かな学力、健やかな心を育てる	「荒中だより」 3月 弥生 第24号	発行者	伊丹市立荒牧中学校 校長 二宮 啓二

第45回 卒業証書授与式を挙行了しました。

3月16日、爽やかに晴れ渡る春の日に第45回卒業証書授与式を挙行了いたしました。学び舎を巣立っていく卒業生の晴れやかな笑顔に、これまでの学校生活の充実と、歩んでいく未来への決意がうかがえました。

《学校長式辞》

厳しかった冬の寒さも和らぎ、春の息吹が感じられるこの佳き日に、多くのご来賓の皆様にご臨席を賜り、「第45回卒業証書授与式」を挙行できますことを、心より嬉しく存じます。厚く御礼申し上げます。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。これまで注がれた深い愛情を思いますと、今日の日を迎える喜びも、ひとしおのことと存じます。また、大切なお子様をお預かりした三年間、本校の教育に温かいご理解とお力添えを賜りましたこと、深く感謝申し上げます。

202名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今お渡しした卒業証書は、中学校の全課程を、そして、義務教育を修了した証です。これまでの歩みに、心から敬意を表します。

皆さん、三年間を振り返り、自分の成長を実感し、胸を張って今日の日を迎えることができましたか。みなさんは仲間とともに多くのことに挑戦し、行事ではメリハリをつけて力を尽くし、常に下級生のよき手本となってきました。部活動や学校生活のさまざまな場面で、**仲間の努力を自分のことのように受け止め、声援を送り合う**、そんな姿を、私は何度も目にしてきました。応援する側も、挑む側も、ともに支え合う。その温かさは、この**荒牧中学校の誇り**です。

皆さんが過ごした三年間は、自然災害や国際情勢の緊張など、社会が大きく揺れ動きました。そして、今もなお、先の見えない不安を抱かせるような状況が続いています。一方で、昨年のおおさか・くわいせい万博では、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、AIやロボティクス、次世代医療など未来を形づくる技術が集まりました。そこでは、未来は、誰かに任せるものではなく、私たち自身が描くものだという姿勢が示されていました。社会はこれからも変化し続けます。しかし、**どれほど技術が進んでも、未来をつくるのは、いつの時代も「人」**なのです。



皆さんが、この多様で、答えが一つではない社会を生き抜き、自ら未来を切り拓くために、大切にしてほしいことを3つお話しします。

第一に、自分の可能性を信じて、進む道を決めることです。正解が一つではない時代だからこそ、自分の意志で選んだ道を歩むことが大切です。メジャーリーガーの大谷翔平選手は、前例のない二刀流という道を他人の評価ではなく、「自分がどうしたいか」を軸に選びました。肘のケガで投手として投げられない期間にも、「今できることをやるだけ」と語り、リハビリを続けながら打者に専念し、活躍しました。そして、二刀流として復活を遂げたあと、さらなる高みに挑戦し続けています。自分の可能性を信じ、ふれずに歩み続けるその姿勢こそが、道を拓く力となります。

第二に、うまくいかない時も、粘り強く前に進むことです。失敗や迷いは挑戦の一部です。人は失敗や挫折を乗り越え、成長する力を持っています。本校の卒業生でもある陸上の中島ひとみ選手は、中学・高校で全国の頂点に立ちながら、その後長い間、結果が出ない時期を過ごしました。それでも競技を続け、三十歳で日本代表として世界の舞台に立ちました。「どれだけ遠回りでも、やっぱりこの道を選びたい。すべてが自分に必要な時間だった。」と語る中島選手。その歩みは、遠回りに見える時間もまた、未来をつくる大切な道であることを教えてくれます。回り道も、立ち止まる時間も、全てがあなたの物語の一部となります。

第三に、仲間と支え合い、ともに進むことです。互いを認め、支え合える関係が、皆さんの未来を強くします。ミラノ・コルティナオリンピックで金メダルを獲得したフィギュアスケートの「りくりゅう」こと三浦璃来選手と木原龍一選手は、ショートプログラムのミスを乗り越え、息を合わせて最高の演技をつくり上げました。落ち込む二人に温かく声をかけ、励ましたのが、同じフィギュアの坂本花織選手でした。坂本選手も、二人の信じ合う姿に背中を押され、見事銀メダルを獲得しました。仲間を思い、支え合う姿勢は、互いの力を引き出し、前へと進む勇気となります。



未来への挑戦の形は、一人ひとり異なります。大きな舞台に立つ挑戦もあれば、仲間を支える優しさもあります。伝統を受け継ぐ責任もあれば、日々の小さな役割を果たす誠実さもあります。どれもが、自分らしく、自分を信じて選んだ大切な道なのです。

卒業生の皆さん。歩む道には、喜びも、挑戦も、そして迷いもあるでしょう。だからこそ、自分の歩みを信じ、仲間を大切に、学び続けてください。みなさんが迷いながら踏み出す一歩が、未来を照らす光になります。

若い時代は「準備の時」です。皆さんがこれから歩む未来にこそ、大きな可能性があります。今日という日を充実させ、明日はその今日を少しでも超えていく。その積み重ねが皆さんの可能性を拓きます。どうか、日々の小さな「自分への挑戦」を続けられる人であってほしい。そして、いつか、あなたが選んだ道が「自分にとっての正解」だったと思える日が訪れることを願っています。

卒業生の皆さんが、家族や先生方をはじめ、皆さんを育み、支えてくださった全ての方に感謝し、夢を持ち、望みを高く、たくましく、未来を拓くことを信じ、卒業に当たっての式辞といたします。